

## 令和5年度 第2回下野市小中一貫教育推進協議会 議事録

審議会等名 令和5年度 第2回下野市小中一貫教育推進協議会  
日 時 令和6年3月19日（水）午後2時～午後4時  
会 場 下野市役所 304会議室  
出席者 海老原忠 委員、鈴木寧子 委員、田熊利光 委員、高橋修一 委員、  
瀬端 徹 委員、松本文男 委員、中川賢一 委員、宮崎真人 委員、  
伊沢幸子 委員、大塚洋子 委員、小野瀬善行 委員、野澤 等 委員  
大塩宗里 委員  
【欠席委員】峯 雅士 委員、菅井貞雄 委員、  
市側出席者 石崎雅也 教育長  
(事務局) 石島直 学校教育課長、森口哲二 同課課長補佐、土田礼巳 同課指導主  
事、水本百合子 同課指導主事  
公開・非公開別 (公開) ・ 一部公開 ・ 非公開)  
傍 聴 人 0人  
議事録(概要) 作成年月日 令和6年3月25日

### 1. 開会（石島課長）

### 2. 会長あいさつ

（小野瀬会長） 宇都宮大学の小野瀬でございます。

第一回が7月末に実施されまして、第二回目の開催となります。年度末のお忙しいところお時間をありがとうございます。

この間の教育に関するトピックなどを少しご紹介して、今日のお話につなげられたらと思います。2つほどお話ししようと思います。

まず1つ目なのですが、昨年末に公表されまして、委員の皆様方にご案内ご承知のことかと思えますけれども、OECD（経済協力開発機構）が行っているPISA（ピザ）という国際的な学習到達度調査の結果が昨年末に公表されて、大きな話題になりました。このPISA（ピザ）は、子供たち、日本でいうと義務教育を終えたばかりの高校1年生が参加するものなのですが、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー、3分野について国際的な中で日本の子供たちはどういう状況なのかというものを測るものです。今回は数学的リテラシーを中心的に測るものでしたが、マスコミ報道等を見ますと、読解力が上がったと。前回かなり下がっていたので、今回持ち直したみたいなことが大きく取り上げられていたところです。その中で、マスコミでは取り上げられなかったのですが、世界各国はコロナの影響もあって休校期間が長かったこと。やはり休校期間が長い国はそれだけ子供たちの学びというのが止まってしまった。成績が落ちたのですが、日本は

コロナを経ても子供たちの落ち込みはなかった、むしろ上がったということで順位が上がったということが話題になりました。これはいろいろな見方、考え方ができると思うのですが、ひとえにやはり学校の先生方が、休校の期間においても子供たちの学びを止めてはいけないという中で、様々な働きをしたということだと思いますし、やはり、日本においては社会経済的、文化的背景というものの力というのか、家庭、地域の教育力が残っていて、そういうところでダメージが少なかったのではないかなというところが言われております。

私はアメリカ等の海外の教育について一応研究させていただいているのですが、学校が休みになりましたとなると、やはり経済的、文化的に恵まれない子供たちはどうしても勉強ができなくなってしまふ、取り残されてしまうという状況が、アメリカはじめ世界各国で見えたところ、日本ではそれが少なかった、やはりこれは学校現場の努力もそうですし、家庭、地域の力というものを示したのではないかと思います。もちろんこれに安心することなく、日本の強みをより持続可能な観点を持ちながら、次にどうつなげていくかということが非常に大事なのだろーと思います。

まさに我々が話し合っている下野市の小中一貫教育ということは、やはり学校があり家庭があり地域がありと、そのようなメンバーがそろっている中で、いろいろ話していくところですので、そういったところのまさに我々と我々が話し合っていることの重要性をあらためて考える国際調査であったかなという風に思います。

もう一点、年明け、能登の方で大きな震災があり、そのニュースの中で紛れがちであったのですが、奈良教育大附属小学校のニュースも話題になったかと思います。公立と国立の附属ではちょっと事情が違うとは思いますが、長年、学習指導要領という国の基準に則った授業をしていないのではないかとということが問題になりまして、そこはそこで独自の教育を行っていたから良い、いやそこは国の方針に基づいていないのはおかしいということで、少し話題になりました。今後やはり地域の特色ある教育がますます求められる中で、国の基準としての学習指導要領というものをどういった風に位置付けていったらいいのだろうか、そのようなことを改めて考える事案、事例だったかなという風に思っています。

下野市もやはり、子供たちの特性に合わせて小中一貫教育を進めていると、その中でももちろん特色を大事にしつつ、多様性を大事にしつつ、国の基準をどのように見据えたらいいのか、このバランスをどのようにとっていったらいいのかを考える事例でした。

少し話が長くなってしまったのですが、国際的な指標も含めて、また市や県と国の基準をどう考えるかもそうですし、様々な論点が先生方や委員の皆様方のご発表からもあると思いますので、広く多

様な観点からご議論いただければと思います。

### 3.議 事

#### (1) 各中学校区における取組について

(小野瀬会長) 各中学校区の校長先生方から今年度の取組についてご説明いただきたいと思います。

(海老原委員) 南河内小中学校における取組について報告

(鈴木委員) 南河内第二中学校区における取組について報告

(田熊委員) 石橋中学校区における取組について報告

(高橋委員) 国分寺中学校区における取組について報告

(小野瀬会長) ただいま各中学校区における取組について、ご報告いただきました。個別のことでも結構ですし、全体的なこと、家庭と地域の連携、語り掛けをどうするかという点が課題として出てきたように思います。委員の皆様からご質問等がありましたら、ご発言をお願いいたします。

ご発言がないようですので、私から最初に申し上げて恐縮ですが、前回、第1回の時もお伺いしたかもしれませんが、コロナが5類になりまして、様々な制約がとれているところかと思うのですが、そういった感染症の影響やそれを前に戻すとか新しい取組でこんな状況になっているとかを共有いただければと思います。

(海老原委員) 校内の活動としては、感染症によってストップをかけている活動はないです。状況に応じて、昨年末近くは学級閉鎖が続いたので、年明け受験に向けて対応はしましたが、活動自体にはストップはかけていないです。

(鈴木委員) そうですね、一昨年度は小中一貫での合同クリーン活動は、校内で罹患者がいた場合には全面的に中止としていたようですが、今年度は校内に欠席の児童がいても心配なく実施したりとか、これまでコロナで行わずにいた合同音楽発表会を実施したりとか、そのようなことで活動が再開したり、基準が緩んだりということはあったと思います。

(田熊委員) コロナ禍での行事を経験しまして、今まで通り一日丸々やるような運動会などは半日に縮小して実施しました。実際に、子供の充実感がどうであったかという、あまり変わらないというような学びを得まして、コロナ後もそれは続けていきたいと思っています。

(高橋委員) 先ほど申し上げましたとおり、夏休みに小中学校の代表児童生徒が集まって対面で話し合いができたことはよかったかなと思っています。先ほどは申し上げませんでしたでしたが、実はもう1つ、中学生が出身小学校に来て清掃交流、清掃を一緒にやりながら清掃のやり方を中学生が小学生に教え、その後、中学生が6年生の教室に行って質疑応答みたいなことを予定していたのですが、インフルエンザの流行で残念ながらそれが中止になってしまいました。

コロナ禍で培ったノウハウとして、いざとなったらオンライン、Zoomなどで交流するという方法も最終手段として用意できるというのがあります。

(小野瀬会長) 取組につきまして委員の皆様からご意見等はございますか。

(野澤委員) 活動を聞いていた中で、南河内小中学校区の方は何かすごく一体感が出てきて、卒業式も感動したということで、やはり小中一貫校はそれが見えてきたなという感じがします。しかし、石橋中学校区は小学校が多いので、逆に大変なのかなと、この辺を早く解決できるようなことを考えていただけないかなと。どういうことかということと学校区を分けて、マンモス校になりすぎているような気もしていて、石橋中学校区は分散して、できれば小中一貫校にもっていってもらえればありがたいなということを感じました。

(小野瀬会長) ありがとうございます。委員の皆様はご案内のとおり、下野市は、施設分離型、施設隣接型、施設一体型の3つの小中一貫教育のやり方がある意味を検証していると、その中で委員の発言にもありましてとおろ、成果と課題を検証して、小中一貫教育や学校の再編についても、話し合いができたと思います。

貴重なご意見ありがとうございました。

ほかいかがでしょう。よろしいでしょうか。

## (2) その他

(小野瀬会長) 事務局からの配布資料の説明をお願いします。

(土田指導主事) 教職員アンケート結果及び次年度の方向性について説明

(小野瀬会長) ただいま事務局からご説明をいただきました。現在、下野市の小中一貫教育は令和7年度までの小中一貫教育推進期に当たっています。今年度は先生方を対象にした小中一貫教育の取組に関する様々な指標、令和5年度の下野市小中一貫教育成果指標に関するお話がありましたけれども、一応目標値を設定した2023年、令和5年度に当たるけれども、これを合わせて令和7年度、2025年度までのことにするかを今後、事務局の方でご検討になるという話だったと思います。

推進期3年目の計画である来年度の下野市学校教育計画でも小中一貫教育の推進、枠組みが示されたと思います。特に来年度は外国語、国際教育、ふるさと学習の推進、さらに家庭教育の推進、地域連携といったものが具体的な取組の方向性として示されたという風に思います。

今のご説明を踏まえて、各具体的な取組もご報告いただいたので、委員の皆様が具体像を持ちながらこれについてはどうなのか、確認したいとか、こういう指標がいいのではないかとか、こういう視点がいいのではないかとか、様々なご意見を広く頂戴できればと

思います。間口が広いところではありますが、委員の皆様からどのような点でも結構でございますので、ご意見等いただけたらと思います。いかがでしょうか。

(小野瀬会長) またしても会長の方からで申し訳ありませんが、事務局の方からあったのかもしれませんが、来年度特に、外国語国際教育の推進ということでお話が出ましたが、来年度外国語国際教育を推進していこうという中で、何らかの理由についてご説明いただいたかどうか、何か補足等ございますか。

(土田指導主事) こちらにつきましては、実は教育計画に令和6年度初めて設定したのではなくて、これまでもずっと位置付けていたもので、各学校でも外国語、英語の指導に当たり充実を図っていただいていたのですが、小中一貫教育の視点からというところがなかなか意識できていないのではないかとというご指摘を、学校教育計画の策定の段階でいただいたものですから、市としてももう少ししっかりとお示ししていこうという次第です。

また、成果指標に現在外国語に関するものは示していないのですが、実は外国語担当の方でこれとは別に外国語・英語学習に関するアンケートというものを児童生徒に取っており、今まとめをしているところです。そういった様々な調査をしていますので、そういったものを一本化しながら1つのまとまったものとして、小中一貫教育の1つの成果として示していきたいと思っています。

(小野瀬会長) ありがとうございます。新しいものではなく、これまでもやっていたことということで、新しく学習指導要領も変わりまして小学校から中学校まで外国語というものを習う中で、小学校はもちろん、幼小中でどのような子供たちの力を身に付けていくのか、具体的な教科の場面でどうなのか、英語は本当に大事な科目だろうと個人的に思います。

ほかいかがでしょうか。

(田熊委員) 先ほど、外国語に力を入れるということでお示しいただいているのですが、実際やる側とすると、単独で学校ごとにやるのはどこでもやっているとと思いますが、小中で連携して行うことでさらに負担が増え、各学校はかなりの負担をするのではないかなと思って危惧をしております。

(小野瀬会長) ぜひ様々な観点からご意見をいただければと思います。

(中川委員) 地域連携ということで、学校運営協議会は昨年の12月、ふれあい学習で石橋中学校区の4校の小学校でクリーン活動を実施しました。時間が非常に少なく実質的には10分か15分かしかいられなかったのですが、それぞれの卒業した小学校に石橋中学校の生徒が行きまして、そこから当該清掃地域に行きまして、それぞれの場所において合同で清掃したと、こちらにも載っていますが、それが学校運営協

議会として初めて行った内容です。

落ち葉がほとんどでしたが、そういう意味での成果はあったかなという風にですね、母校に戻ってにこにこして、手をつないで帰るようにしたものですから、今までそのような光景は見たことがなかったので、非常に微笑ましい、まさしく小中一貫教育だなと思いました。これは南河内小中学校とは違う意味で、離れているからこそできたことかなと、先ほど読書のことでお話があったかと思いますが、なかなか本を読まない、最近はスマートフォンで文書が届いてそれで読める時代なのですが、市の広報の方で見かけた図書館サポーターというそこに中学生を向けて図書館で本の整理をするというのは非常に良いし、そういったことをきっかけに読書に興味を持つことができるのかなと。小学生はないのですか、と市の担当課の方に聞いたのですが、そうしたら子供司書という方法があると、それはそれで子供に図書館に来てもらって、そういった内容の図書館に関する勉強ができるのだと、それをミックスして学校外にはなりますけれども、合同でそういった作業を仲良くできるというのもありかなと思います。図書、本を通じて交流ができるとまた違った意味での小中一貫教育ができるかなと思いましたので、参考になるかどうかわかりませんが、これから学校運営協議会で提案しようと思います。このような視点はあるようでなかったようですから、市としても非常に期待している、子供のころから図書館に来てもらえるという意味合いがあるので、よろしくお願いします。

(小野瀬会長)      ありがとうございます。中川委員もおっしゃっていましたが、特に後半、小中一貫教育は学校だけで完結するものではないので、学校外で小学生中学生と一緒にやったり、様々な活動に参加したりすることも大事でないかという話もあり、そういう視点も大事ではないかと思います。

これについて関係の委員、事務局から何かありますか。

大変貴重な視点からのご意見ありがとうございます。

(野澤委員)      教育関係は分からないことも多いのですが、小中一貫教育に関するアンケートは、だいたいいい値を出しているということなのですが、校長先生方から見て、先生方がかなり大変な思いをしているのかなという風に思います。そのあたりの感想とか、これだけがいい方向に向いているというだけではなくて、実態のところはどうなのだろうかというところを聞かせていただけるとありがたいです。

(小野瀬会長)      ありがとうございます。やっていく中で、先ほど田熊委員からもありましたけれども大変な部分もあると思いますし、こういったところで工夫ができてというところ、「それはよかったな」みたいなところで、ご意見等が中心となるとは思いますが、何かお気付きの点とか感想とかありましたらお願いします。

(田熊委員) 例えば、職員会議について、それが現在どの学校も水曜日に実施するのですが、その水曜日に小中一貫の日が6回入ってくるわけですから、学校の職員会議を半分にしました。そうやって調整しないと何事もうまくいかないで、やりようなのかなという風に思っています。なるべく効率よく、あまり重なったりしないように、負担があまり大きいと先生方もだんだん嫌になってきて、続かないと思いますので、その辺は校長会とかで部会の方で負担があまりないようにやっているところです。

(野澤委員) 働き方改革を行っていても、なかなか教職員になる方がいない。その中で上に立つ人からして教職員を大事にしてあげてほしいなと思っています。

(小野瀬会長) ありがとうございます。数値の裏にある解釈等、ありがたいと思います。

教員不足ということは、私の身の周りでも大きな課題になっています。ほんとにまず地域の人のご理解があつての職業だなとも思いますし、ありがとうございます。お気付きの点等ございましたらお願いします。

(伊沢委員) 夢とか目標というところがいつも気になっているところで、なかなか夢を持たないとか、夢がないとか、お母様方に聞いても「うちの子は考えてない」とか聞くのですが、考えていないのではなくて、考えさせていない、こういう視点は常に持っている方がよいと思います。何もないとただ勉強だけしろと言ってもただ点数だけ上げるのではなくて、夢に対して自分がそれに向かっていくことで、どれがどんな勉強がどのように必要かがわかってくると思うので、皆さんが先生方にも何かの時に夢を叶えるように、考えるだけでなくそれに対してどうするかを考えていってもらいたいと思います。

夢を持たないとか、私もこの年になっていろいろ興味が出てきて、歴史なんかは全然中学校の時はやっても面白くなかった。そういうのを、なんで面白くないのかなと思ったら、裏話みたいのをしてもらえると、結構ドラマなんかでも裏話があったりしてそういうところを話してくれる先生だったら面白いかなと思いました。そういった話を交えながら、ただ真面目に教科書通りにやるとかではなくて、そういうのをやってほしいなと思います。

(小野瀬会長) ありがとうございます。伊沢委員は以前から夢、目標を持つことの大事さですとか、もちろん学校現場においてはキャリア教育の充実であつたりとかということでご対応いただいていると思います。また、以前お話が合ったように、学習指導の充実、習熟度別という風に、伊沢委員のお話のものではもれ落ちてしまうこともあると思うのですが、逆にもれ落ちてしまう子供も含めてこういった場で共有いただけたのはありがたいかなと思います。

夢や目標といっても、小学生中学生にとっては大きな、ビックワードだと思いますので、何をもって小学生らしい、中学生らしいというのは難しいですが、適切な夢ですとか、目標とかをどうやって持っていくのか、今ももうやってらっしゃると思うのですが、これから小中一貫教育だからこその重要性もあるのではないかなと思います。

もちろん、繰り返しになりますが、学習指導の充実ですとか小中一貫教育で新たに見えてきた課題等もあると思いますので、ぜひそう言ったところは共有いただければと思います。

(中川委員)

伊沢委員いいですか。今学校は大変だと思うのですよ。鉛筆の持ち方、箸の持ち方等、全部学校ですよ。本来は、夢とか目標とかは親子で話し合いをしてもらって、子供さんの話を聞く、聞いてくれる親がまずいてくれないと、あるいはいじめられていて苦しいとか親御さんが聞いてくれたうえで、という大前提がないと、学校に行きなさい、こっちの方がいいでしょとするのが親御さんの役割だと思うのですよ。学校はとてもじゃないけど、クラスに30人も40人もいるので特別の対応ができないと思うので、まず家庭教育なのかなと思うのですね。理想は理想ですけど、まず親御さんに聞いてもらって、学校に相談をする。それだって担任一人では難しいので、チームでやったりしていますけど、小中一貫教育として9年間になって、不登校で学校に通えない子なんかもあるようですから、当然そこに目を向けないといけないのですけれども、私はまずは家庭かなと思います。

伊沢さんは、お子さん一人一人をしっかり見て判断されているというのが一番いいですよ。ただ、見ていない親御さんが多いです。テスト、プリントが返ってきても、「あっ、そうなの」で終わってしまう。テストなんかでは「頑張ったね」なんてことを一言掛けてあげればいいのに、「あーそう」で終わってしまう。子供からすると張り合いがないですよ。そこで自己肯定感が芽生えるのに、当たり前といった顔をする親御さんが多数いるので、親の教育をしないとイケないのではないかな、と思います。

(小野瀬会長)

親世代としては、すみませんという気持ちになりますね。ありがとうございます。広いところで、小中一貫教育、学校に関わることだけではなく、家庭等で異年齢の子供たちが学び合うということもテーマになると思います。

(瀬端委員)

小中一貫教育について、地域でそれぞれ取り組んでいただいているようで、大変参考になるところでございますが、つながりというものすごく大事だなと思うことがあります。本校では、マラソン大会ができなくなって、校内での駅伝大会に行事を替えました。石橋高校の校庭は広くないのですが、校内を一周1キロのコースを取りまして、男女混合、共学ですのでチームを組みまして、学年対抗、学級対抗で走ることを4年間やり続けたのですが、例えば3年生が走るときには

1年生がコースの係りをやったり、2年生は応援したりしていました。本校の特徴として、部活動の先輩を応援するというのはよくあることだと思うのですが、同じ出身中学のいわゆる先輩後輩を応援するという光景がとて多いのですね。マラソン大会では、スタートの時とゴールの時でしか仲間を応援できないということがあるのですが、同じ1キロのコースをぐるぐる回っているだけなので、そのときに小中学校でつながりがあるからということでの応援がよく見られてですね、コロナで悪いことばかりではなく、生徒にとってはあまり走らなくてよかったというのもプラスなのかもしれませんが、行事としては日頃よりも盛り上がるように行事に生徒たちが参加するような形を成果としてあげられるようになったので、こういうつながりは大事なのだなと思っています。

もう一点ですね、本校では一日体験学習で、かつては体育館などの広いところで生徒会が代表となって説明会を行っていたのですが、コロナ禍であることや実施の時期がとても暑いということで、エアコンが入っている教室で、実施をする形になりました。説明会の中で、高校2年生の男女がそれぞれ入りまして、自分の高校生活を含めて話をし、それを必ずしも出身中学校とは限りませんが、中学3年生に聞いてもらいました。そして、本校に対する高校生活のイメージを形成するというような形で、こちらもコロナ禍になって形態を変えて実施したのですが、おかげさまで、子供が減っている時期ではあるのですが、コロナ以前が子供と保護者合わせてだいたい二千人であったところ、コロナの時期で2年間できなくて少し落ちたところが、今年度は二千人越えて生徒たちも、先輩の話から、自分の高校生活のイメージができましたと、アンケートに書いてくれる中学3年生がいました。

小中学校でも同様に、中学生を小学生が見て自分が将来こんな中学生になるのだらうなというイメージを持つでしょうし、そういうところで、憧れをもって頑張ろうという気持ちを持つと思うのです。当然中学から高校に来るわけですが、中学生と高校生の関係でも感じる、意識されるところもあるものですから、その関係を小中学校の早い段階から作っていただけるとよいのではないかと、感じています。

(小野瀬会長)

ありがとうございます。お話にあったように、身近な先輩後輩というものは古くからある文化かもしれませんが、改めて大事であるということ気付かせていただきました。そのような縦のつながりといった点で大塚委員いかがでしょうか。

(大塚委員)

貴重なご意見を各学校区からお伺いできて、私自身の学びになりました。縦のつながりというのは保育園でも課題となるところで、なかなか難しいと感じています。南河内小中学校の海老原委員からもありましたが、保育園、私立の幼稚園もありますが、小学校の入学の時に

は、幼稚園、保育園の特色が様々なので、卒園したお子さんが入学した際にそこをまとめていく、幼稚園・保育園のゴールは小学校入学に向け「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をどこの園も取り組んでいるところなのですが、特色がやはり園ごとに違うので、入学した時のそれぞれのスタートラインが全く違うのではないかなと思っていて、小学校の先生方はそのとりまとめというところをご苦労されていると思います。

公立園に関しては、強い特色を持って取り組んでいるわけではないので、指針に沿ってやっているの、海老原委員のお話に共感できる、小中学校の縮図を保育園でやっているかというのを再確認、私たちの保育はこれでいいのか、このあとの小学校、中学校、高校につながっていくのかなという再確認をさせていただいています。

この前の土曜日に年長児が卒園をしたところなのですが、0歳～6歳のお子さんがあるので、年長の後半ともなるとやはり小さい子をいたわる力が自然と保育園の中では生まれてきていて、行事の時などは年長が行事の企画をするのですが、小さい子が楽しめるものは何かというのを、対話を通して身に付けることが大事だと感じているところです。必ず小さい子が楽しめることを作って、小さい子たちを大きい子たちがエスコートして行事に参加するスタイルをとっているの、小学校、中学校、高校の先生からもお話がありましたが、非常に保育園がしていることが近いなと感じて再確認させていただき、それが育った子供たちが小学校に行って、より良い花が開くように、夢のお話もありましたが、卒園式で子供たちがおうちの方に夢を発表して堂々と卒園証書をもらったところです。小学校に行ったらお勉強や運動をたくさんして、またもっともっと違う夢との出会いがあるからチャレンジしてねという風にどの先生も言って送り出しているところですので、わくわくするような教材等を子供たちにぜひ与えていただければということです。

縦のつながりの中で、本当に先生方がお忙しいところ、本当は私たちも「架け橋プログラム」といって小学校と連携をしていかなければいけないところなのですが、やはり時間の確保が難しくなかなか進んでいない状況ですが、夏のときに、子供たちが小学校に行ったときに施設、特にトイレが怖いとつまずくお子さんがいると教えてくださった校長先生がいらっしゃったかと思います。毎年2月に私たちの園の子供たちが各小学校に見学に行かせていただくのですが、そういえばこの会議で先生方が施設につまずいてしまう子がいるという話をしていたのと、できれば施設を見られるといいねと。実は新規場面が苦手なお子さんが保育園にも多くて、卒園式も無事にできるかどうか、事前に見通しを立てて練習をしているのですが、当日までひやひやしながら、全職員でサポートをしながら卒園式をやったというところで

す。新規場面が苦手なお子さんは定型発達であってもいて、わざわざ設定するのではなく、その機会があるときに学校を見せていただいたりとか、今年度は残念ながらありませんでしたが小規模特認校の細谷小学校の先生が学校の PR に来てくださったり、子供たちは小学校に対する期待がものすごく大きくて、いつもは先生に「おはなしちゃんと聞こうね」といわれている子供たちでも小学校の先生が来ることでシャキーンとして、私たちもすごく良い刺激をいただいています。そんな機会からまずは保育園で小学校の先生と会うこともよいと思います。

先ほど、前期課程と後期課程の先生方の交流をしているとお話がありました。保育園も地域交流は苦慮しているところで、地域の学校の先生を退職された方に来ていただいたり、児童館の方で音楽を聞かせていただいたりとか、実験教室もやっていただいたりとか、白衣を着て前に立っていただくだけで、あんなに話を聞かない子供たちなのに話を聞けるのだというのがあるので、少しお時間が空いている先生などにそのようなことをお願いして、子供たちの興味関心を引けるだけでも、淡い期待ですが。

縦のつながりは保育園も課題に感じているところで、このような会議で先生方が取り組んでいること、成果等を聞かせていただいて、保育園に戻って再確認する、私たちがやっていることは小学校に、中学校に、高校、大学につながることであることを職員に話をしていきたいと思います。

(小野瀬会長) 幼保小の連携のつながりもあると思いますし、そういった小さなうちの体験というものが、小中高と大事になってくるところかなと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

松本委員全体的なご意見ありますか。

(松本委員) 先ほど令和5年度の学校運営計画のご説明がありました、地域との連携という部分についてはですね、地域連携担当の先生方、いろいろな形で地域に発信していただいて、地域の教育力をとここに書いてありますが、組織的な取組を行うということなのですが、もっとより具体的に地域に発信していただけたら、地域の方も協力する、地域の方から歩み寄ることができることもたくさんあると思います。すでに発信していただけていますが、より一歩踏み込んで地域と学校が本当に連携できるように、その枠組み作りはもちろんです、どこまでそれを具体的に落とし込んでいけるかというところで課題でもありますし、やりがいのある部分かなと思います。

学校運営協議会で、私も南河内小中学校運営協議会に所属していますが、学校から学校運営協議会への意見もありますけれど、逆に学校運営協議会から学校へ地域の意見をご提案できるような協議会でありたいなという風に思っていて、学校と地域の橋渡しを学校運営

協議会の方で構築していければと考えています。

(小野瀬会長)      ありがとうございます。10ページに関わるご提案、ご発言いただいたと思います。お話のとおりなかなか難しい問題ですし、課題だだと思います。小中一貫教育に限らないお話かもしれませんが、遅れている部分の向上を目指しながら学校運営協議会の協力、取組をまたいろいろなところでご発表いただけたら、具体的にこういう提案がうまくいったよ、そのようなお話なんかもいただけるといいのかなと、繰り返しになりますが、小中一貫教育に限らず、特にそういった取組などございましたら宮崎委員からは何かございますか。

(宮崎委員)      今日は保護者という立場で参加させていただいておりますけれども、保護者の学校教育に関する意識の低さというのは、僕も含めてですが、感じる場所がありまして、何事に対しても学校頼りになってしまっているなど感じる場所です。今日も先生たちの話を聞きながら、せっかくこれだけ良い委員会をされていて、すごく良い内容だなと思うのですが、これをもっと分かりやすく保護者にも伝えてくれたらと思う無責任な自分があります。やはり、こういう場に立たせていただいている私ですら、このように他人ごとになってしまうので、このような場にはいない保護者からしてみれば、本当に他人ごとになってしまっているのだなということを痛感している場所です。このような機会をいただいた私が、もう少し保護者に広めていく、学校と連携しながら、本日の先生方の発表の中にも地域という言葉が多く出てきましたが、保護者という言葉はあまり聞こえませんでしたので、もっと入り込んでいければと思っています。

保護者のフォローをするわけではありませんが、現状二極化していると思います。すごく教育に関心のある保護者は、高額な塾に通わせていたり、子供を巻き込んで活動されていたり、オリンピックを目指す親子で活動されている方がいらっしゃる場所もあって、全員が教育から目を背けていたり無関心だったりするわけではなくて、一部の熱心な方は学校以外のところで活動されている方も数多くいらっしゃるって、そこは難しいですが、行政機関等ともっと連携していければ保護者の関心もより深めていけると思います。私自身も反省を込めて、感想とさせていただきます。

(小野瀬会長)      ありがとうございます。私も1人の親世代として聞いていました。もちろんその中でPTAにすべてを背負わせるのは生産的ではないですし、保護者もいろいろな背景がある方がいらっしゃるって、PTAを通じて活動されている方もいらっしゃると思いますし、地域のサークル的なもので親世代がいろいろなことを頑張っているところとか、このような保護者さんがいらっしゃるって、このような活動をされていますよという情報共有をしていただけただけでも、そこにどのようにアンテナを立てていくべきかということにもつながると思いますし、二極化

というのは本当にその通りだなと思います。学校の先生方もいろいろなところでお話を聞いたりしていると思いますので、このような活動をされている保護者さんがいるよねということで、違うチャンネルみたいなものをどう作っていくかを考えていくのもよいと考えました。ありがとうございました。

(大塩副会長) この小中一貫教育推進協議会に参加してほしいと言われたときは、「どうしたものか」と私自身が何も分からないので、分からないことに対して、現場の先生方は実際に子供を預かるわけだから大変だと思うのですね、それをよくやっているなと思います。子の取組のために多くの観点から攻め込んでいっているわけですよね、まさに果敢に取り組んでいるのが見えるわけです。国分寺中学校では、家庭・地域あたりから取り組んでいらっしゃるんですよね、いろいろな学区を読ませていただいたのですが、よく考えてみるとそこに流れているものに心の教育が挙げられてきたのですね、1年生から9年生までの心の流れ、近くの小学校などでの心の流れ、石橋中学校区心の流れの教育の中で、小中一貫教育の流れを作ってこられたのかなという風に思いました。

成果として見事なものが挙げられています。南河内小中学校では保護者さんから小中一貫教育は素晴らしいという感触を得られたということで、すごいと思うわけですが、大変な教育活動ではありますが、これだけ多くの成果があればこれはやめることはもったいないと、何とか続けることに効果があるのではないかと、南河内第二中学校のところで、持続性という言葉がちらっと出ました。まさにこれだなと、私も感じました。これからの課題として持続性は大きな課題になるかなと感想として思いました。大変ではあると思いますが、二年ということに限らず先生方のご健闘をお祈りしています。

(小野瀬会長) ありがとうございます。本日の予定していた議事は以上になります。活発なご協議ありがとうございました。

## 9 事務連絡

## 10 閉 会